

刊行にあたって

今年度も多くの会員と若干の客員のご協力により、年報第8号『学力問題と教育政策』を刊行することができました。まずは執筆者各位に心からお礼を申し上げます。

本号の特集テーマは、「学力問題と教育政策」といたしました。周知のとおり「学力問題」は、わが国の教育史の節々において大きな論点となってきたものの一つです。とりわけ戦後教育においては、それは教育政策においてはもとより、教育の理論と実践においてもっとも基本的なイシューであり続け、少なからぬ論争が展開されてきました。そして近年、「新学力観」、「生きる力と学力」、「基礎・基本」、「学力低下」などをめぐって、「学力問題」は改めて重要な教育政策上の論点になるとともに、大きな社会問題の一つとして新たな論争が展開されています。

しかしながら、論争の核心部分にある「学力」それ自体の定義ないしは概念は、今日においてもなお論者によって多義にわたっており、確定されているとはいえません。本号の特集を編むにあたっては、こうした理論状況、問題状況を意識しつつ、どのような切り口の論稿を編むべきか、適切な執筆者は誰かなどについて、前号（特集・ナショナリズムと教育政策）と同様に大いに苦勞しました。5本の特集論稿を味読され、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

本号には、特集論稿の他にも、第7回大会（明治大学）の報告（公開シンポジウムおよび課題研究）、投稿（論文・教育政策フォーラム）、内外の教育政策・研究をめぐる動向、書評・図書紹介などが満載されております。ぜひご一読下さい。

今回も八月書館の方々には大変なご無理をお願いいたしました。末筆ながら心より感謝を申し上げます。次第です。

2001年4月20日

日本教育政策学会年報編集委員会
委員長 三上昭彦